

## 第106回大江戸探索会（江戸川橋～護国寺）

7月15日(土)午後2時、文京区と新宿区の境を流れる神田川脇にある東京メトロ江戸川橋駅に集合。薄日も差し蒸し暑い中、20人強が参加した。今回は目白台・神田川の地歴に詳しい寺尾隆雄先生のご案内で、良く通るお声でかつ分かり易く解説して頂いた。

スタート地点となった江戸川橋は、江戸から明治大正期にかけて、清戸(現清瀬市)から練馬の村々も合流して野菜を江戸へ運び、復路は江戸から下肥を運んだ清戸道(約15km)の起点で、船との積み荷の入れ替えを行う物流重要拠点とのことであった。

音羽通りを北に進み、手前の“病気平癒にご利益”とされる今宮神社にお参りし、次いで右手高台にある鳩山会館(通称鳩山御殿)にて鳩山一郎氏往時の軌跡を辿った。



今宮神社



鳩山会館

音羽通りを少し戻り、目白坂(清戸道)を登って椿山荘に至り、庭園にて記念撮影した。



椿山荘にて集合写真

目白通り反対側のカテドラル教会、続いて椿山荘西脇にある和敬塾、永青文庫、そして急な下り坂となる胸突坂を下り、芭蕉庵、水神社を経て、肥後細川庭園に至り散策。その後目白通り方向にて田中角栄邸(通称目白御殿)表門、さらに目白通りを進んで日本女子大学に至り見学、不忍通りから東京メトロ護国寺駅に抜けてゴールした。

山坂の多い目白台巡りでタツプリ汗を絞られたが、恒例の反省会にて喉を潤し、解散した。

(飛田悦男・記)